



平成13年度上半期事業のご報告

# 株主のみなさまへ

第77期上半期

平成13年4月1日から  
平成13年9月30日まで

## ごあいさつ

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜わり、ありがたく厚くお礼申し上げます。

平成13年度上半期のわが国経済は、国内での個人消費の低迷やIT関連産業を中心とした民間設備投資の減少に加え、世界経済の減速を背景とした輸出の大幅な減少などにより、後退の様相を呈しました。

鉄鋼需要につきましても、建設向け等の国内主要分野における需要の落ち込みに加え、アジア向けを中心に輸出についても減少したことから、前上半期を下回りました。

このような状況のもとで当社は、収益改善に向け、全社をあげて徹底したコスト削減に取り組んでまいりました。しかし、鉄鋼事業における販売価格の下落により、当社の当上半期の売上高は3,603億円、経常利益は104億円となり、前上半期に比べ減収減益となりました。これに特別退職金および退職給付債務積立不足の償却負担等の特別損失を計上いたしました結果、当期損益は遺憾ながら5億円の損失となりました。

当期の中間配当につきましては、当上半期の業績および先行き不透明な今後の経済環境等を総合的に勘案し、これを見送らせていただくことにいたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、なにとぞ事情ご賢察のうえご了承賜りますようお願い申し上げます。

また、当上半期の連結決算につきましては、連結売上高は5,799億円、連結経常利益は134億円、連結当期純損失は28億円となりました。

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、個人消費や民間設備投資などに回復の兆しがみられず、さらなる悪化が予想されるほか、米国同時多発テロ事件による景気への深刻な影響も懸念されます。また鉄鋼情勢につきましても、国内はほぼすべての分野にわたって鋼材需要の減少が見込まれており、輸出についてもアジアをはじめとして減少が見込まれることから、非常に厳しい状

況で推移するものと思われます。

このような状況のもとで、当社は安定的に収益を確保するため、営業・技術研究・製造の各部門が一体となって、お客さまに信頼される商品開発や技術開発に総力をあげてまいります。さらに国際的な競争激化の中で勝ち抜くために、海外企業との戦略的提携関係の構築を図り、堅固な収益基盤の確立をめざしてまいります。

日本鋼管株式会社との経営統合につきましては、両社社長を共同委員長とする統合推進委員会を組織し、協議を着実に進めております。

また、環境保全につきましても引き続き最新の技術のもとにより一層の努力を傾けるなど、豊かな社会・文化づくりに貢献してまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

平成13年12月

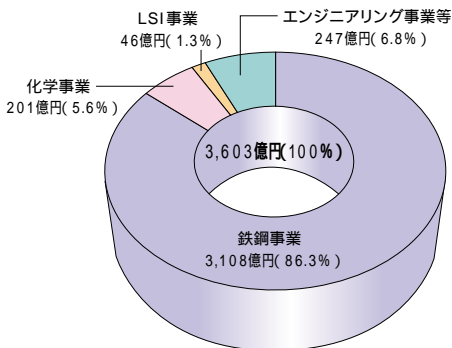
取締役社長

数土文夫

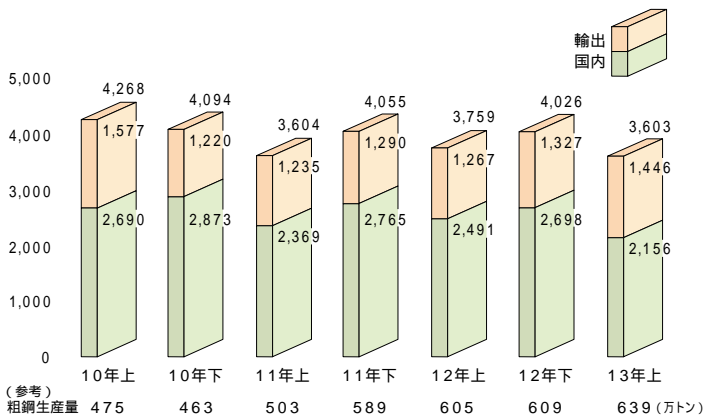


# 業績

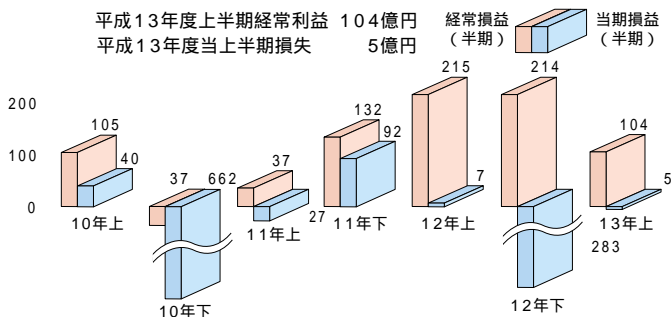
## セグメント別売上高（平成13年度上半期）



## 売上高の推移（単位：億円）



## 経常損益・当期損益の推移（単位：億円）



# 財務諸表

## 貸借対照表の要旨(平成13年9月30日現在)

(単位:億円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	3,149	流動負債	3,252
現金および預金	73	買掛金	725
受取手形・売掛金	637	短期借入金	628
棚卸資産	1,777	その他	1,898
その他	661	固定負債	6,956
固定資産	11,359	社債	3,191
有形固定資産	6,188	長期借入金	2,842
建物	1,340	その他	923
機械および装置	3,266	負債合計	10,209
土地	831	(資本の部)	
その他	749	資本金	2,396
無形固定資産	175	法定準備金	1,528
投資等	4,995	剰余金	248
子会社株式・出資金	2,533	(うち当上半期損失)	(5)
投資有価証券	1,418	評価差額金	125
その他	1,043	資本合計	4,299
資産合計	14,508	負債および資本合計	14,508

(億円未満の端数は切り捨てております。)

- (注)1.有形固定資産の減価償却累計額 23,640億円  
 2.1株当たり当上半期損失 0円16銭  
 3.商法第290条第1項第6号に規定する純資産額 125億円

## 損益計算書の要旨(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)

(単位:億円)

科 目	金 額
営業収益	3,603
営業費用	3,454
営業利益	149
営業外収益	71
営業外費用	116
経常利益	104
特別利益	10
特別損失	130
税引前当上半期損失	15
法人税・住民税および事業税	0
法人税等調整額	10
当上半期損失	5
前期繰越利益	31
当上半期末処分利益	26

(億円未満の端数は切り捨てております。)

## TOPICS

### LSI事業部が分離・独立、 「川崎マイクロエレクトロニクス(株)」が発足

本年7月1日、当社LSI事業部は会社分割により分離・独立し、「川崎マイクロエレクトロニクス株式会社」としてスタートいたしました。

当社LSI事業部は、1990年の設立以来、ASIC(特定用途IC)専業でのビジネスを展開し、ネットワーク・通信関連IC、デジタルカメラ向け画像処理IC、OA機器等向け画像処理ICなどを中心にASICベンダーとしての地位を確立してまいりました。

このたびの分社化により川崎マイクロエレクトロニクスは、変化の激しい事業領域での意思決定スピードを確保しつつ、顧客満足度の高い世界トップグループのASICベンダーとしてさらなる成長をめざすとともに、当社100%の連結子会社として当社グループの連結ベースでの収益力向上に寄与してまいります。

### 川鉄グループの建設系4社が合併、 「川鉄シビル(株)」が発足

本年10月1日、当社グループの建設系マネジメント会社である川鉄シビル(株)と、その傘下の下記3社が合併し、「川鉄シビル株式会社」として発足いたしました。

川鉄テクノコンストラクション(株)

川鉄シビル・カワケン(株) (川鉄建材(株)から本年4月1日に分離・独立)

川鉄シビル・カワキ(株) (川鉄機材工業(株)(現・川鉄リステム(株))から本年4月1日に分離・独立)

新しく発足した川鉄シビル(株)は、鉄鋼関連技術を基盤にした商品ラインアップを有する鉄から生まれた新しいタイプの建設会社です。同社は、パイプライン、橋梁・土木、建築、システム建築、立体駐車場、特殊工法、製鉄所補修関連等、多様な商品ラインアップを揃え、当社グループの建設系事業を担う連結子会社として堅実な事業展開をめざしてまいります。

### PSC、焼結鉍累計出荷量1億トン達成

当社の100%子会社であるフィリピン・シンター・コーポレーション(PSC)は、本年9月14日に、1977年4月の稼働以来、約24年間かけて焼結鉍累計出荷量1億トンを達成いたしました。

PSCの設立と焼結工場の建設は、74年にフィリピン政府と当社の間で合意されたプロジェクトです。投資金額は当時の金額で620億円と、現在においてもフィリピン国への単一企業の投資としては最大級のものであります。

PSCは、製鉄主要原料である焼結鉍を生産し、その大部分を当社・千葉、



PSC・焼結鉱累計出荷量1億トン記念式典

輸出実績もあります。同社の操業技術および設備技術は、当社とほぼ同等の水準に達しており、98年に国際標準ISO9002(品質)を取得、現在はISO14001(環境)の取得活動を行っております。

今後ともPSCは、世界で唯一の焼結鉱専門メーカーとして、世界各国への拡販を視野に入れながら、安定した製鉄原料の供給に努めてまいります。

## 東京リース(株)にリース事業を移譲

本年5月、当社は東京リース株式会社との間で、当社のグループ会社である川鉄リース株式会社のリース事業を、東京リースに移譲することで基本合意いたしました。その内容および合意にいたった背景は次の通りです。

### [基本合意内容]

川崎製鉄は川鉄リースのリース・割賦事業を東京リースに移譲(川崎製鉄の事業所内の工場建屋をはじめとする賃貸不動産等を除く)することで合意いたしました。譲渡契約を締結の後、2002年3月までに移譲完了する予定です。

### [リース事業移譲の背景]

規模の拡大をめざした業界再編が進むリース業界のなかで、川鉄リースが今後とも収益をあげていくためには、大手リース会社との提携が必要と判断し、具体的に検討を進めてきたものです。

当社は、このリース事業の移譲による連結ベースでの有利子負債削減を通じて、当社グループの財務体質が一層強化されるものと考えております。

## HISTORY鋼管の納入を開始

当社は、高強度・高加工性電縫鋼管「HISTORY鋼管」を開発し、昨年10月に製造設備を稼働いたしました。このたび発売されたトヨタ自動車(株)の「エスティマハイブリッド」のシートフレームの高強度ベルトアンカー部材として採用されました。

HISTORY鋼管は、熱処理なしでも、シーム部を含む円周方向の硬さが均一であり、さらに高強度でありながら曲げや絞り等の厳しい加工に十分耐え

## TOPICS

られる、世界で初めての高性能鋼管です。これは、縮径ミレでの温間域高縮径圧延により創製された材質特性であり、この特性により、低炭素鋼素材を用いても鋼管の高強度化が可能となり、優れた溶接性を兼ね備えます。

今回の採用にあたっては、HISTORY鋼管の特長を活用することで、加工・溶接工程等を変更することなく部材の高強度化による軽量化が図れるというメリットが評価されました。

当社は今後も、お客さまの多様なニーズにお応えするために、HISTORY鋼管の製品ラインナップの充実を図ってまいります。

### 自動車部品等向け新合金鋼粉「KIP21SX」の本格販売を開始

当社は、日本国内で唯一の総合鉄粉メーカーとして、還元鉄粉、アトマイズ鉄粉、合金鋼粉を製造しております。この度、新合金鋼粉「KIP21SX」の本格的販売を開始し、製品ラインナップを拡充いたしました。

KIP21SXは、主に自動車や電動工具等の焼結部品向けとして開発した新合金鋼粉で、ニッケル、モリブデンをプレアロイした鋼粉に、ニッケル粉、銅粉、黒鉛粉の合金元素粉を結合剤で付着させた、ハイブリッドタイプの合金鋼粉です。

本製品は、焼結後の熱処理工程を省略しても、高強度・高硬度の焼結部品が得られます。したがって、従来の合金鋼粉では必要であった焼結後の熱処理が不要になるため、お客さまにおける製造コストダウンや生産性向上に寄与いたします。

当社では、KIP21SXを、高強度・高硬度の要求される自動車部品、電動工具部品をターゲットに販売活動を展開してまいります。

### 太陽電池用原料事業、商業生産を開始

当社は本年4月、水島製鉄所内において、太陽電池向けシリコンウエハー用インゴットの商業生産を開始いたしました。

商業生産を開始したプラントは従来から実施されている半導体用規格外シリコン等からシリコンウエハー用インゴットを製造するプロセスで、当社が世界で唯一の技術として開発した、溶融した金属シリコンから冶金的精製処理による原料シリコンを製造するプロセスとの併用も可能な、フレキシブルな製造ラインです。今回の商業生産は、国内での太陽電池用シリコンウエハーの不足にいち早く対応するために、従来からある凝固工程を行なうプロセスを立ち上げたものです。

また、溶融した金属シリコンを用いたプロセスの立ち上げについても、今後の原料シリコンの安定供給をめざして商業生産の準備に取りかかる計画です。なお、生産規模としては、現状の200トン体制から、将来的には年間400トン程度までの拡大を計画しております。

## 重要な子会社等の状況

平成13年9月30日現在における連結子会社および持分法適用会社は以下のとおりそれぞれ187社および24社であります。

連結子会社 持分法適用会社

鉄鋼事業	
電炉	原材料供給
ダイワスチール株式会社	川鉄鋳業株式会社
豊平製鋼株式会社	水島合金鉄株式会社
東北スチール株式会社	川崎炉材株式会社
鋼材加工製品等の製造・販売	フィリピン・シンター・コーポレーション
川鉄鋼板株式会社	製鉄設備整備・保全
川鉄建材株式会社	川鉄マシナリー株式会社
川鉄コンテナ株式会社	川鉄電設株式会社
リバースチール株式会社	運輸業
川鉄鋼材工業株式会社	川鉄物流株式会社
株式会社川鉄甲南スチールセンター	その他鉄鋼関連
川鉄テクノワイヤ株式会社	藪本鐵鋼株式会社
川鉄電磁鋼板株式会社	川鉄テクノリサーチ株式会社
川鉄鋼管株式会社	水島共同火力株式会社
カリフォルニア・スチール・インダストリーズ・インク	他71社

### エンジニアリング事業

川鉄シビル株式会社  
川鉄メタルファブリカ株式会社  
川鉄リステム株式会社

他29社

### 化学事業

川鉄フェライト株式会社  
カワサキ・エルエヌピー・インク

他16社

### LSI・情報通信事業

川崎マイクロエレクトロニクス株式会社  
川鉄情報システム株式会社

他5社

### リース・グループファイナンス事業

川鉄リース株式会社

他31社

### その他の事業

不動産、各種サービス

川鉄ライフ株式会社

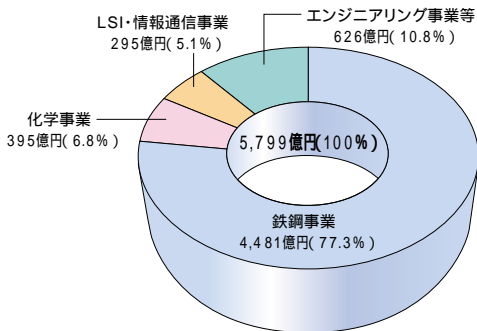
その他

株式会社ケーエスシー都市開発  
川鉄商事株式会社  
川商ジェコス株式会社

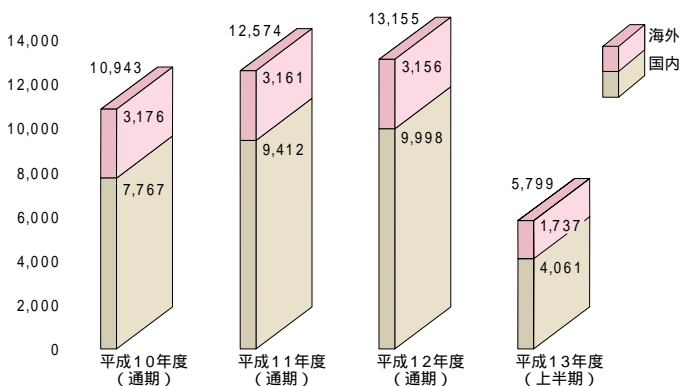
他24社

# 連結業績

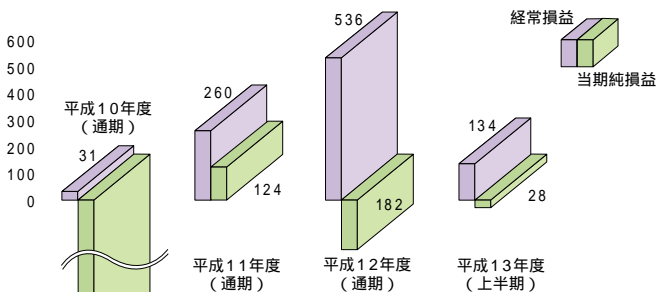
## セグメント別売上高（平成13年度上半期）



## 売上高の推移（単位：億円）



## 経常損益・当期純損益の推移（単位：億円）



平成13年度上半期経常利益 134億円  
 平成13年度当上半期純損失 28億円

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表の要旨(平成13年9月30日現在)

(単位:億円)

科 目	金 額	科 目	金 額
( 資 産 の 部 )		( 負 債 の 部 )	
流 動 資 産	6,703	流 動 負 債	6,905
現金および預金	284	支払手形および買掛金	1,891
受取手形および売掛金	2,674	短期借入金	2,513
棚卸資産	3,016	そ の 他	2,500
そ の 他	728	固 定 負 債	11,018
固 定 資 産	14,321	社 債	3,191
有形固定資産	10,901	長期借入金	6,186
建物および構築物	2,883	そ の 他	1,641
機械装置および運搬具	4,253	負 債 合 計	17,923
土 地	2,697		
そ の 他	1,066	( 少 数 株 主 持 分 )	
無形固定資産	504	少 数 株 主 持 分	345
投資その他の資産	2,915	( 資 本 の 部 )	
投資有価証券	1,743	資 本 金	2,396
そ の 他	1,171	資 本 準 備 金	1,121
		再 評 価 差 額 金	173
		連 結 剰 余 金	652
		その他有価証券評価差額金	148
		為替換算調整勘定	429
		資 本 合 計	2,756
資 産 合 計	21,025	負債、少数株主持分および資本合計	21,025

(億円未満の端数は切り捨てております。)

## 連結損益計算書の要旨

(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)

(単位:億円)

科 目	金 額
売 上 高	5,799
営 業 費 用	5,586
営 業 利 益	212
営 業 外 収 益	88
営 業 外 費 用	166
経 常 利 益	134
特 別 損 失	145
税金等調整前当上半期純損失	10
法人税・住民税および事業税	40
法 人 税 等 調 整 額	22
当 上 半 期 純 損 失	28

(億円未満の端数は切り捨てております。)

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)

(単位:億円)

科 目	金 額
営業活動による キャッシュ・フロー	830
投資活動による キャッシュ・フロー	588
財務活動による キャッシュ・フロー	187
現金および現金同等物に 係る換算差額	8
現金および現金同等物の 増加額	45
現金および現金同等物の 期首残高	247
現金および現金同等物の 期末残高	293

(億円未満の端数は切り捨てております。)

## お知らせ

平成13年10月1日施行の商法改正により、株式制度が以下のとおり変更されましたのでお知らせいたします。なお、株主のみなさまにおかれましては、本件に関する一切のお手続きは必要ございません。

単位株制度が廃止され単元株制度が創設されたことに伴ない、当社の1単元の株式数は1,000株となりました。(単元未満株式の買取請求手続は従来どおりご利用いただけます。)

額面株式が廃止されたことに伴ない、当社株式はすべて無額面株式となりました。

### 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および利益配当の基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
臨時基準日	必要ある場合にあらかじめ公告のうえ設定
1単元の株式の数	1,000株
手数料等	株券再発行等の手数料 ..... 印紙税相当額 単元未満株式の買取手数料 ..... 株式の売買の委託に係る手数料相当額 上記の料の消費税相当額 ..... 手数料に加算
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 〒100-8240 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都江東区佐賀一丁目17番7号 〒135-8722 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0570-000324(専用ダイヤル) 03(3642)4004(代表)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社全国各支店 安田信託銀行株式会社本店および全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞および神戸新聞

### 事業所・従業員

本社	神戸市中央区北本町通1丁目1番28号 〒651-0075 電話(ダイヤル案内台)078(232)5111
東京本社	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号(日比谷国際ビル) 〒100-0011 電話(ダイヤル案内台)03(3597)3111
支社	大阪・名古屋
支店	北海道(札幌市)・東北(仙台市)・新潟・千葉・横浜・静岡・北陸(富山市)・岡山・四国(高松市)・広島・九州(福岡市)
営業所	神戸・沖縄(那覇市)
出張所	長野・青森
海外事務所	ニューヨーク・ヒューストン・ロンドン・シンガポール・バンコック・ジャカルタ・マニラ・北京・香港・上海・ソウル・ブラジル(リオデジャネイロ)
製鉄所	千葉(千葉市・西宮市)・水島(倉敷市)
製造所	知多(半田市)
工場	橋梁・鉄構播磨(兵庫県播磨町)
従業員数	9,351名

当社は、インターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。アドレスは <http://www.kawasaki-steel.co.jp/> です。どうぞご利用ください。

この報告書は再生紙を使用しております。